

パーキンソン病について No2



話題の新薬 オテズラ錠

ホスホジエステラーゼ4阻害剤

セルジーンは、ホスホジエステラーゼ (PDE) 4 阻害剤「オテズラ錠」を新発売した。本剤は、中等度から重度の尋常性乾癬および関節症性乾癬に対する有効性が示されており、既存の内用剤とは異なる作用機序を有する。なお、本剤は、投与開始時に漸増投与を行わなかった場合、悪心、下痢、嘔吐などの副作用の発現率が高くなること示唆されていることから、スターターパック 27錠 (10mg × 4錠、20mg × 4錠、30mg × 19錠) を用い、漸増投与を遵守することが推奨されている。

薬価 スターターパック=22369.8円

30mg 1錠=972.6円

副作用情報 デパス

田辺三菱製薬から販売されている精神安定剤の「デパス錠・細粒」は、発売開始から平成28年までに、依存関連事象が720件報告された。そのため重大な重要な基本的注意の項に「連用により薬物依存を生じることがあるので、漫然とした継続投与による長期使用を避けること」が追記された。

糖尿病 坂道の町はリスク減

緩やかな坂がある地域の高齢者は平らな地域に比べ、重い糖尿病になるリスクが減るという研究結果を東京医科歯科大学などのグループがまとめた。中等度以上の糖尿病患者 (指標となるヘモグロビンA1cが7.5%以上) は、住んでいる地域の平均傾斜が1.48度高くなる (100メートル進むと約3メートル上がる) と18%減ることが分かった。軽度の患者は差がなかった。本人が気づかないうちに運動量と筋力が増え、血中のブドウ糖が消費され血糖値の上昇が抑えられている可能性があり、症状が進まなくなるとみられる。

パーキンソン病の症状 その1

主な運動症状の初期症状には以下の4つが知られています

① 手足がふるえる (振戦)

初期症状として最もよくみられる症状です。

安静時 (静止時) にふるえることが特徴で左右差がみられます



② 動きが遅くなる (無動)

動きが遅くなり、少なくなります。顔の筋肉も動きにくくなるため、表情が乏しくなったり、よだれがでたり、声が小さくなる場合があります。また、字が小さくなることも症状の一つです。

③ 筋肉が硬くなる (固縮)

筋肉が硬くなり手足の動きがぎこちなくなります。

医師が診察時に、患者さんの関節を曲げ伸ばしする時感じる抵抗で、患者さん自身が自覚することは少ない症状です。



④ 体のバランスが悪くなる (姿勢反射障害)

パーキンソンが進行し、ホーンヤールの重症度分類(*)でⅢ以上になるとみられる症状です。立ち上がる時、歩く時、方向転換する時などに体のバランスを崩しやすく、倒れやすくなります。

* ホーンヤールの重症度分類

パーキンソン病の重症度を表すのによく使われる指標で、パーキンソン病の症状に応じて、最も軽いⅠ度から最も重症なⅤ度に分類されます。

